

手

TAICHI TESHIMA

ミズノ(株)

嶋 多

Kyushu Open Golf
Tournament 2019

九州オープン 「炎暑の格闘」

「2019九州オープンゴルフ選手権競技(優勝・副賞賞金500万円)」は8月1日(木)から4日間、福岡県直方市の西日本カントリークラブ(6869^坪、パー71)で143人(プロ99人・アマ44人)が出場して開催され、3日目に単独トップに躍り出た手嶋多一(ミズノ・50歳)が通算12アンダーの272ストロークで逃げ切り大会初優勝を飾った。2打差の2位は三重野里斗(キミエコーポレーション・24歳)、さらに1打差で小浦和也(フリー・26歳)と成松亮介(ザ・クイーンズヒル・27歳)が3位。また大学生7人が決勝ラウンドに駒を進めたアマチュアは、東海大九州1年の井戸川純平(宮崎大淀)が総合29位タイの通算4オーバーでベストアマに輝いた。なお、優勝者に付与される「日本オープンゴルフ選手権競技(10月17日(木)古賀GC)」の出場権は手嶋が既に権利を有しているため2位の三重野が獲得した。



度々みせる柔和な笑顔は一転、セットアップに入ると瞬時に鋭い眼光での的を照射。連日猛暑日を記録する、まさしく熱戦を制したのは50歳のベテラン手嶋。眩しい緑と木々の真っ黒い影がくっきりと映る過酷なコンディションに、自ら「体力温存、省エネで」と称す百戦錬磨のマネジメント力を駆使して乗り切った。

故郷の田川市から程近い望郷の地に「懐かしいです、雰囲気だ」と追憶するノスタルジックなステージに飛び出した手嶋はスタートラインホールで第2打でOBを叩いた第1ラウンドを1オーバー37位タイと出遅れたが、1つ盛り返して折り返した後半をボギーフリーの5バーディーで巻き返した第2ラウンドで6アンダーの65をマークして射程の1差2位タイに浮上。そして、ムービングサタデーの第3ラウンドは4日間平均4・86を記録したパー4の難関18番でピンまで220ヤードの第2打をU3でべたピンに絡めるバーディーで締め括って只一人2桁の10アンダーに伸ばしてトップの座を奪うと、迎えた最終ラウンドは今大会通じて初の3パットを喫した6番（パー4）では最終組で凌ぎを削る若手の三重野と成松に一時並ばれたが、再びトップに立って突入した後半は11番（パー3）をボギーとした続く12番（パー4）で透かさずパウンスバックして流れを渡さず、後続に2打のリードを持って入った終盤の17番（パー4）ではバーディーチャンスにつけて望みを託す三重野の外側から気をそぐ10打余りのバーディトライを振じ込み、大勢は決した。

仕方ないなって感じだ」と意に介さず、自らがモットーとする「シンプル」なスタイルを全うした手嶋が、過去44歳で優勝したアマの大倉清（05年）が持つ大会最年長優勝記録を50歳の節目で塗り替えた。

初陣の米Sツアーで刺激 新天地に意欲

ツアー序盤の6月に腰痛に見舞われた昨年はベストテンに1度もランクイン出来ずに88位に止まり22年間保持した賞金シードは途切れたが、14年日本プロ優勝で得た（5年シード）権利を行使する今シーズンは、シニアルーキーとして臨んだ4月のPGAシニアツアー開幕戦「金秀シニア沖繩オープン」に次ぐ2勝目を飾るなど気持ちを高ぶらせる。

「今年は全米シニアプロに行ったのが凄く自分の中で刺激になっていて」と、過去5年以内のレギュラーツアー優勝者枠で招待出場した自身初の海外メジャーを日本勢最高の18位で終えた5月には「ビジネスと最終日を二人で回ったりとか感受性を受けた。昔、僕らはテレビで観て、カッコいいと思ったカブルスやランガーとかと一緒にやるわけじゃないですか。あの辺の選手は味があるし、凄く衝撃的でした」と再燃。さらに、高校卒業後にアメリカのアレキサンダー・ジュニアカレッジを経て東テネシー大学にゴルフ留学した当時は「絶対叶わないなって思ってた2歳年下のミケルソンやデュバルとかと、50歳になってもう1回戦いたいなっていう気持ちが芽生えまし



リスク回避で体力温存。 プロ28年の試合巧者が 大会史上最年長V

2年ぶりの凱旋ゲームとなった今回。中学2年で挑んだ第4回九州各県アマ選手権（福岡県B地区）で優勝を飾り、ツアープレーヤーに転向した翌94年に参戦した九州オープン以来、四半世紀ぶりとなる思い出のステージに臨んだ手嶋。汗が飛び散る猛烈な暑さに「集中力は体力シヨトパットのタッチは全部その辺から来る」と練習ラウンドは体力の維持を見極め回避し、初日にコース攻略を見定めて挑んだ2日目以降は「（ラフは）潜っちゃって駄目ですね。何処いくか分からないので頭に入れて、中途半端に攻めたりしないで、攻める所と守る所をはっきり分けてやったのが良かったと思う。ラフからPWで打つよりもフェアウェイから6番で打った方がチャンスはある」とリスキーな深いティフロン芝が点在する難所を避け、よりコントロールに徹するティショットで3Wと5Wを手にする頻度を増やして攻勢に転じた。

戦略眼に勝る練者は「特にこのコースは頭を使った方が絶対良いスコアが出るんで、無暗に攻めたら大体ミスするパターンがある。グリーン真ん中に打つホールと、外して良い所と駄目なところをちゃんと分けて」と圧倒的な飛距離を誇る20代の若手選手を横目に「プレッシャーもあるし、僕が出来るのはフェアウェイキープして、セカンドでチャンスをつける事。目標としては14アンダーで負けたら

たね。いいなって思いました。幅を広げたいですし、それから海外のシニアも含めて色々考えたいなと思ってるんですよ」と奮い立つ新たな光を見出した。

「これからも、現役で バリバリやります」

「ドローを打たないと自分じゃない。それがバロメーターで、打てない時は駄目です。無理にフェードが向いてるホールでも考え過ぎずに単純に自分の持ち球で如何にプレーするか。ドローの中の微調整がコントロール出来る様になれば、調子が上がってくるんですよ」。7月初旬の日本プロ選手権から約3週間のオープンウィーク中には修正を施し「スイングのテンポとかリズムが割と良くなってきて、今週は良い感じで思いがけず良いゴルフが出来た。（13年）優作が優勝した時のように、九州オープンで勝つと良い事があるんじゃないかと思って、これを切っ掛けに後半頑張りたいと思います」と、世界の舞台を頭の片隅にモチベーションを高める手嶋は、優勝スピーチで「13歳の時に初めて出場した九州オープンという試合は本当に深い思い出がありまして、九州のプロとして1度は勝ちたいと思うてました。今日それが出来て嬉しく思っています。シニアになりましたけどまだ現役でバリバリやっています。また来年も良い状態で戻って参ります」と希望に満ち溢れた晴れやかな笑顔を見せた。

に輝き、最高は三つ巴のプレーオフで山本恒久に惜敗した98年の2位。93年プロテストに合格し、レギュラーツアーに本格参戦した25年間で「30代半ば頃までは多分誰よりも練習していたと思うんですけど、今はやはり無理をしないというか、とにかく省エネゴルフ。ゴルフの内容もメリハリつけて、疲れないようにシミュレーションしている」と、最善のプレースタイルを探求してメジャー2勝を含むツアー通算8勝を重ねた勝負師は「小さかった時から出てた大会で：。正直、ココは地元」と意欲を燃やした故郷の舞台で不屈の魂を吹き込んだ。

三重野・成松 最終組二人は痛恨の1打

ベテランが手にした優勝カップは照りつける日の光に輝いた一方で、最終組で奮戦した20代の三重野と成松はともに「情けない」と項垂れた。プロ6年目の三重野は「7番ですね（OB）。大ベテランには1打でも厳しいと思うのに、17番でバーディを決められた瞬間に終了って感じでした。（手嶋プロの）表情は凄かったです。喋ってても自分のベースをしっかりと持ってる」。同じく成松も「追いついた矢先の7番（OB）で：。ゴルフがそつない。ボギーを打っても直ぐに取り返すし、隙がありそうではなかったです。良い勉強になりました」と脱帽。手嶋がボギーを喫した6番（パー4）で互いにバーディを奪って追いつきながら、続く7番（パー4）のティショットがともに左のOBゾーンに消えた痛恨の1打が、最後まで影を落とす。

ベストアマ 東海大九州の井戸川

12歳から67歳までの44人が挑んだアマチュアは大学生7人が決勝ラウンドに進出して争った結果、宮崎日大高から今春東海大九州に進学した初出場の井戸川がベストアマを獲得。「最近あんまり調子が良くなかったんですけど、久しぶりに4日間のゴルフが出来たので、自信には繋がります」と充実の表情を見せた。

「今まで経験した事がないくらい暑かったです」とシビアな4日間を振り返った井戸川は、予選ラウンドで鬼門となった2番（パー3）で2日間ともOBに見舞われスコアを落とすも5バーディ・3ボギーで盛り返した2日目に通算1オーバーでアマトップタイの総合22位に上昇すると、4人が横一線に並んで突入した決勝ラウンドを3オーバーで耐え終戦。「（最終日は）精神的にも疲れました」と薄水を踏む勝利に表情を緩めた。

新天地の大学では週3日のウエイトトレーニングの成果で飛距離は15mアップして290mまで伸ばすなど、40人余りが凌ぎを削るゴルフ部で切磋琢磨。精鋭10人のAチームに1年生で唯一名を連ねる期待の星は「大学生のレベルも高いんで、気が抜けない。秋の団体戦メンバーに入って、団体優勝に貢献できるような選手になって、4年間で団体も個人も日本一になれるように、これからトレーニングもちゃんと積んで、4日間戦えるような体力をつけていきたいと思います」と夢を広げた。

2020は大分東急GC

節目の第50回大会を迎える来年は、2003年（第33回大会＝優勝白濁英純・フリー）以来2回目の舞台となる大分県大分市の大分東急ゴルフクラブで開催される。

2 三重野 里斗
キミエコーポレーション



3T 小浦 和也
フリー



3T 成松 亮介
ザ・クイーンズヒル



5T 嘉数 光倫
エナジック



5T 比嘉 一貴
フリー



7 諸藤 将次
ディライトワークス



